

第3節 整備の現状と課題

磯浜古墳群の指定地の全体と個々の構成要素とに分けて、整備に関する現状と課題について、以下に記述する。なお、それぞれは、第1節で扱った保存のための復旧、第2節で扱った公開活用のための施設整備等に関して整理する。整備に関する現状を整理すると、ほとんどの内容でほぼ手付かずの状態にあることが確認でき、今後に残された課題は山積している。

指定地全体の現状と課題

内 容	現 状	課 題
墳丘・周濠 (周溝)	・車塚古墳や日下ヶ塚古墳は墳丘の裾部や斜面が急崖地となり、姫塚古墳は客土で歪に変形している。五本松古墳や五本松下古墳は、墳丘が完全に削平され、古墳時代の形態が損なわれている。草木生い茂る現況のままでは、古墳の持つ構造や外表施設について学ぶことができず、古墳の理解を半減させている。	・古墳の保護を念頭に置いた整備が必要である。その一方で、史跡 磯浜古墳群の価値を現地で体感するためには、当時の姿を復元する措置も必要である。
駐車場	・日下ヶ塚古墳と坊主山古墳との間に、民間の大森駐車場3台分があるが、その他は永町駐車場やトヨペット スマイルホール大洗(文化センター・中央公民館)の駐車場を利用する。	・専用で一定程度の台数を確保した駐車場が必要である。
道標 全体・古墳別説明板	・史跡指定の令和元年度以降、令和4年度までに、合計17基の道標を建ててきた。 ・磯浜古墳群全体の説明板が日下ヶ塚古墳と永町駐車場に、合計2基建っている。 ・姫塚古墳・車塚古墳・日下ヶ塚古墳の個別説明板は各1基建っている。 ・経路を案内するサインは、古墳群の内外の迷いやすい分岐点に12地点建っている。	・本数が増え経路案内、解説は充実してきたが、日下ヶ塚古墳・車塚古墳説明板の一部には、県史跡段階の内容・仕様を残しており、統一したサインに修正する必要がある。
散策路	・既存の町道や漁港道路が機能しているが、古墳内、古墳間を回遊する際の順路は特に定まっていない。そのため、一部では轍ができ、遺構を損傷している問題がある。	・町道や漁港道路の維持や改廃含め、指定地・指定地外における、有効な経路を考え、回遊路の設定が必要である。

内 容	現 状	課 題
学習施設	町内の児童生徒や大洗町を訪れる来遊客が、古墳時代の概要や磯浜古墳群を体系的に学べる、あるいは当時の生活の様子を体験学習できるような施設は無い。	町内児童生徒や来遊客が、出土した遺物を見ることができて、体系的に磯浜古墳群を学べる学習施設が必要である。防火・防犯上の問題をクリアし、保存管理しつつ資料を常設展示できる、史跡に直結するガイダンス施設や埋蔵文化財センター等の施設設置が必要である。
上水道	日下ヶ塚古墳に上水道1基が引かれていて、除草作業時など簡単な手洗いはできるが、整備はされておらず、むき出しで蛇口があるだけである。	トイレの整備などと合わせ、手洗い用の上水道施設は必要である。
トイレ	まったくの未整備で、簡易トイレも無い。	磯浜古墳群を歩くと、1時間程度の行程になるため、古墳群内にトイレは必要である。
四阿・ベンチ	休憩できる施設は、まったくの未整備である。	特にアップダウンの多い史跡を回遊するため、見学を希望しない足の悪い方もいるので、休憩できる場所が必要である。
バリアフリー	現地までの経路、及び古墳間、あるいは各古墳の墳丘は、段差や傾斜の他、崖面が露出しており、足の悪い方や車イスの方など、多様な方々が楽しめるような環境にはなっていない。	回遊路の設定、整備計画を練る際に考慮する必要がある。
周辺遺跡	大洗駅横の町観光情報交流センターうみまちテラス内に、日下ヶ塚古墳の埴輪と関連する髭釜遺跡の埴輪棺の展示解説がある。しかし、髭釜遺跡や一本松遺跡に関する総合的な案内はまったくない。	第2章第4節でみたように、周辺には古墳群が造られる歴史的背景となる、髭釜遺跡や一本松遺跡などの弥生時代から古墳時代にかけての遺跡があり、古墳群と共に関連付けて評価し、遺跡の性格が分かるような整備を進める必要がある。

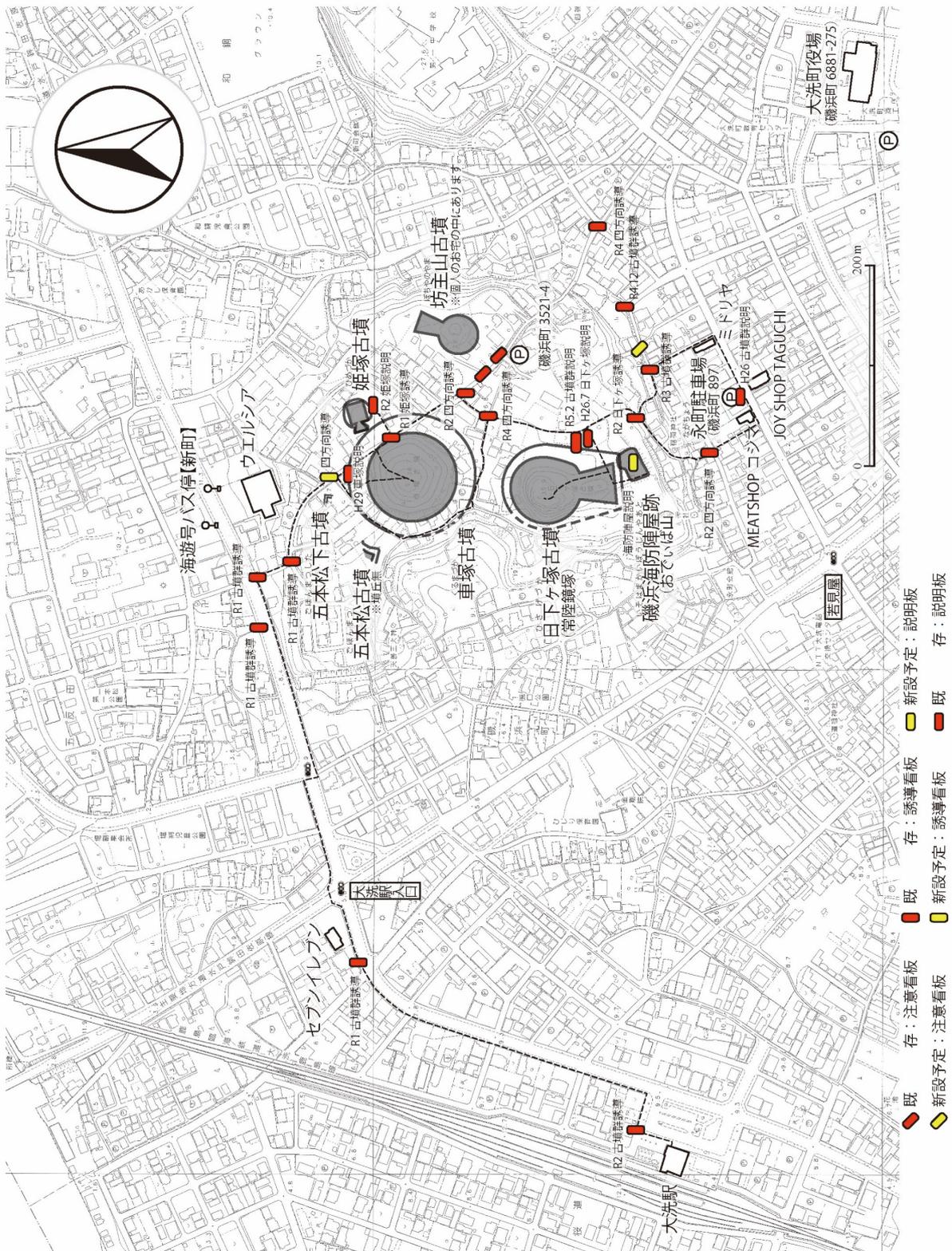


図 4-4 道標（説明板・案内板）

分類		内容	現状	課題	
指定地内	史跡の本質的価値を構成する諸要素	姫塚古墳	墳丘	<ul style="list-style-type: none"> 常緑の低木が生い茂り、まったくの未整備である。 前方部全体や後方部の裾部は現代に削平を受け、後方部南側は盛土され、本来の墳形を維持していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 伐採や枝下ろしなどの樹木管理の方針が必要である。 現状の削平や盛土された墳丘のままでは、前方後方墳の理解は進まず、価値が伝わらない。復元するのかそのまま残すのか、どのように取り扱うのか。
			周溝	<ul style="list-style-type: none"> 現況ではすべて埋没しており平坦で視認できない。 	<ul style="list-style-type: none"> どのように視覚化するのか、部分的に見せるのか、一定程度の広がりで見せるのか。
			埋葬施設	<ul style="list-style-type: none"> 位置・構造とも不明である。 	<ul style="list-style-type: none"> 追加調査をして位置・構造等を解明する。
			出土遺物	<ul style="list-style-type: none"> 後円部墳頂に並べられていた小型丸底土器他の出土状態は、現況からは分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> 出土状況・出土遺物が分かるように、現地あるいは展示施設等で明示する。
			埋蔵されている遺構遺物	<ul style="list-style-type: none"> 土器類の墳頂部配列の実態は、よくわかっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 土器の墳頂部配列が分かる追加調査が必要。

表 4-10 整備の現状と課題 1

分類		内容	現状	課題	
指定地内	史跡の本質的価値を構成する諸要素	日下ヶ塚古墳	墳丘	<ul style="list-style-type: none"> ・後円部には、スダジイや常緑の低木が生い茂る。 ・後円部西側や前方部斜面は、江戸時代や昭和時代に削平され急崖地となっており、回遊に危険性が伴う。 ・埴輪配列の外表施設は、一部の位置は確認されているが、埋め戻され、現況では確認できない。 ・後円部の平坦面や斜面の構造が不明である。 ・括れ部東側に造出の可能性がある部位があるが、明確にはなっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伐採や枝下ろしなどの樹木管理の方針が必要である。 ・磯浜海防陣屋による削平された墳丘自体が、歴史的重層性を示し価値を持つものであるから、墳丘を復元するのかそのまま残すのか、どのように取り扱うのか。 ・平坦面における埴輪配列をどのように表現していくのか。 ・後円部の追加調査が必要である。 ・括れ部東側は追加で調査を入れ、構造を把握する必要がある。
			周濠	<ul style="list-style-type: none"> ・盾形で復元されているが、平面形態が未確定である。 ・前方部の隅角や西側の限界位置の位置が未確定である。 ・現況ではすべて埋没しており平坦で視認できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・追加調査を入れ、平面形態を確定していく必要がある。 ・どのように視覚化するのか、部分的に見せるのか、一定程度の広がりで見せるのか。
			埋葬施設	<ul style="list-style-type: none"> ・後円部の粘土槨1基を除き、他の埋葬施設は不明である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・埋葬施設は単体であるのか、複数であるのか、後円部墳頂の追加調査が必要である。 ・史跡整備の重要な部分とみられるが、どのように表現をするのか。
			副葬品	<ul style="list-style-type: none"> ・約4,000点の副葬品の内、約9割は國學院大學博物館に保管され、一部は常設展示され、大学教育や貸し出しなど普及事業に寄与している。残る1割の大洗町教育委員会所蔵資料は、大洗町幕末と明治の博物館に保管されているが、常設展示されておらず、内外の企画展時、展示を行うため、観覧者より常設展示を望む意見は多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大洗町教育委員会所蔵資料については、町内児童生徒や来遊客が、体系的に磯浜古墳群を学べる学習施設で、なおかつ防火・防犯上の問題をクリアでき保存管理できる、史跡に直結したガイダンス施設や埋蔵文化財センター等における展示を行っていくことが必要である。他館資料は、レプリカの製作や3D計測なども有効な手段。
			出土遺物	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度に出土した主要な埴輪類は、埋蔵文化財整理事業棟で保管されており、一般には公開していない。年間1月程度の企画展で一部を展示する場合はあるが、常に常設展示している展示館は無い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古墳のどこにどのような埴輪が立っていたのか、現地での表現が必要。企画展開催時のアンケートにも、磯浜古墳群資料の常設展示を望む意見は多い。

表4-2 整備の現状と課題2

分類		内容	現状	課題	
指定地内	史跡の本質的価値を構成する諸要素	日下ヶ塚古墳	遺体	・副葬品や遺骸1体の出土状態から、粘土槨木棺内に、二体の遺骸が埋められていた可能性が高い。	・粘土槨木棺内の副葬品などと合わせ、明示する展示が必要。
		埋蔵されている遺構遺物	・特に墳頂部平坦面における埴輪配列が分かっていない。 ・後円部中段の平坦面における埴輪配列も不明。	・追加調査を実施し、埴輪の配列を明らかにする必要がある。	
	車塚古墳	墳丘	・スダジイや常緑の低木が生い茂る。 ・埴輪配列、葺石、敷石、区画石などの外表施設は、一部の位置は確認されているが、埋め戻され、現況では確認できない。 ・南側の裾部に造出の可能性のある部位があるが、明確にはなっていない。	・伐採や枝下ろしなどの樹木管理の方針が必要である。 ・平坦面や斜面における埴輪配列、葺石、敷石、区画石などの外表施設をどのように表現していくのか。 ・南裾部は追加で調査を入れ、構造を把握する必要がある。	
		周濠	・現況ではすべて埋没しており平坦で視認できない。駐車場の下になっている。	・どのように視覚化するのか、部分的にみせるのか、一定程度の広がりで見せるのか。	
		埋設	・位置・構造とも不明である。	・不明の埋葬施設の扱いはどうするのか。	
		外表施設	・部分的に葺石・敷石・基底石・区画石などを検出しているが埋め戻され、現況では確認できない。	・各石をどのように史跡で表現するのか、その整備方針を定める必要がある。	
		出土遺物	・球形胴の壺形埴輪、朝顔形円筒埴輪、普通円筒埴輪などの埴輪が出土し、復元されているが、公開する施設がない。	・恒常的に展示する施設が求められているが、現在、その施設がない。	
		埋蔵されている遺構遺物	・朝顔形円筒埴輪と普通円筒埴輪との配置構造が不明。	・追加で調査を行った上で、埴輪配列を明らかにして、整備に繋げていく必要がある。	

表 4-12 整備の現状と課題 3